第3学年 道徳科学習指導案

指導者 京都市立伏見南浜小学校　沼田 健吾

1.　日時　　令和8年 11月13日（金） 第5校時（13:10～13:55）
2.　学年・組　第3学年 1組（26名）
3.　主題名　「思いやりの心」 親切、思いやり B―（6）
4.　教材名　「いちばんうれしいこと」（「生きる力3」日本文教出版）

5.　主題設定・教材について

（1）　ねらいとする道徳的価値について

B－（6）の『親切・思いやり』は、3・4年生の段階では「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」が、学習指導要領の指導の観点として挙げられている。

本時での『思いやり』とは、小学 3 年生の児童の実態に合わせ、「相手の立場に立ち、喜んでもらうよう心を配ること。」と定義する。また、『親切』とは、「思いやりの心をもって、実際に声をかけたり手助けをしたりする具体的な行い。」と定義する。つまり『親切・思いやり』を3・4学年で指導するということは、「相手を思いやる心をもって、人が喜ぶことをしていこうとする態度を養う」ことをねらいとする必要がある。

また、児童の実生活で、『親切・思いやり』とは、より良い人間関係を築くために必要不可欠な観点である。人とは、思いやりの心があるからこそ、親切な行動への意欲へ繋がると考える。本時の学習では、自身の経験に基づいた思いやりのある行動のみならず、その時の自分の気持ちや周りの反応を見つめなおす機会を与えたい。その中で、思いやりの心をもった行動は、自分や周りの人を喜ばせる行動だということに気づかせ、思いやりの心をもって人が喜ぶことをしていこうとする態度を養わせたい。

（2）　教材について

本学級の児童は、これまでの学習から「親切な行動をする。」という意識が育っている。学級内でも、進んで困っている人に手を差しのべたり、学級のために自主的に仕事を行ったりしている。一方で、認められる機会が減ると行動の意欲が衰退し、徐々に望ましい行動が減ることが少なくない。学習指導要領（特別の教科道徳編）の『親切・思いやり』の観点では、3・4年生の段階で「進んで」というキーワードが記されている。やらされ感を感じることなく、自主的に思いやりをもった親切にできる態度を養っていく必要がある。そのためには、目的意識が重要となってくる。「やなせたかし氏」の考えをもとに、思いやりのある行動は、「相手」や「自分」、「周りの人」を幸せにする尊い行いであると価値づける。そういった『自分や周りの人を幸せにする。』という目的をもとに、行動への意欲を湧かせたい。そして、自身の思いやりのある行動をふりかえり、共有し合う活動を通して、思いやりのある具体的な行動を学び合い、思いやりのある行動を進んで行う気持ちを高めていきたい。

本時の授業では、「やなせたかし氏」の戦時中の経験をもとに、「何よりきつかったのはうえること。」だと気づいた。その経験を通して、「思いやる気持ちがいちばんたいせつ」だと考えている。その経験は、アンパンマンの作品に込められている。中心発問では、それらの思いを考えることを通して、「人の思いやる大切さ」や「たくさんの人に喜んでほしい思い」について深く考えてもらいたい。

6.　本時のねらい

やなせたかしさんの「人をよろこばせることがいちばんうれしい」という考え方を通して、人を喜ばせることにこめられた思いについて考え、思いやりの心をもって人が喜ぶことをしていこうとする態度を養う。

7.　本時の評価（評価方法）

やなせたかしさんの「人をよろこばせることがいちばんうれしい」という考え方を通して、人を喜ばせることにこめられた思いについて考え、思いやりの心をもって人が喜ぶことをしていこうとしている。（ノート・発言）

8.　本時の展開

	学習活動	○発問 ◎主発問 ・予想される児童の反応	●支援 ・留意点 資質能力
導入	1.『思いやり』の意味について考える。	○『思いやり』とは、どういう意味ですか。 ・人に優しくする。 ・相手を大切にする。 ・相手のことを考える。	・「思いやり」という言葉の定義を共有する。(「相手の立場に立ち、喜んでもらうよう心を配ること」)また、「親切」との違いについても触れる。
	『思いやり』について考えよう。		
	2. やなせ氏のことを知る。		・やなせ氏の「人は人をよろこばせることがいちばんうれしい。」という意外な思いを伝えることで、学習に対する興味づけを行う。
展開前段	3. 読み聞かせを聞く。		・「戦争中のつらさ」、「アンパンマンの思いやり」などを確認しながら読み聞かせを行う。
	4. 教材を読んで主発問について考える。	◎やなせさんは、アンパンマンをどのような思いで作ったのでしょうか。 ・相手のことを思いやる大切さを知ってほしい。 ・たくさんの人に読んでもらい、喜んでほしい。 ・思いやりであふれる世界になってほしい。	・児童の意見をメモしておき、最後にキーワードのみを板書する。
	5.『思いやり』の大切さについて考える。	○『思いやり』は、なぜ大切か。 ・相手の気持ちを考えるだけで、相手はうれしいから。 ・思いやりをもった親切は、相手にもその思いが伝わるから。 ・相手のことを第一に考えることが、親切にする上で一番な大切なことだから。 ○『思いやり』が高まると、どんな良いことがあるか。 ・ただの親切より、相手はよりうれしくなる。 ・周りの人もうれしくなる。 ・自分も気持ちよくなる。	・児童の意見で挙げられた『思いやり』に注目させ、ただの親切と『思いやり』をもった親切の違いから、話し合いを通して思いやりの大切さに気づかせる。 自己調整力 ・アンパンマンの動画を見せ、思いやりをもった行動をすると『自分も相手も周りの人も笑顔になっていること』に気づかせる。
展開後段	7. 自分の経験をふりかえる。	○『思いやり』のある行動、できたことはありますか。 ・家の手伝いを進んでやったこと。 ・落ちていた消しゴムを仲間に渡したこと。 ・電車の席をお年寄りの人にゆずれたこと。	●思いやりのある行動に対しての自分の気持ち・周りの反応なども、発表の中で尋ねる。
終末	8. 学習の振り返りをする。	○今日の学習で学んだことは何ですか。	●「これまでは(も)～。これからは～。」という型を与え、自分事として考えられる視点を与える。 自己決定力
板書計画			